

ただそれらが、火災・転居等で現在、紛失されているのは惜しむべきである。しかし、公衆衛生へのたずさわりのや、学童の口腔診査の状況等が、そこには垣間見える。
又、美唄独特の旅行会の様子も記録にある。

ノート2（昭和8年第32号）

「むし歯予防デー」昭和8年5月8日

美唄方面の口腔衛生思想啓発を目的とする、座談会を企画する。まず、町役場、警察、衛生組合等の講演を依頼し、会場とする役場の許可を得て議事堂を使用する。宣伝ビラ3,000枚。学童への葉8,000枚。当日の来会者に配布する印刷物として（むし歯の予防、六歳臼歯の保護）400枚。

青年団、婦人会、青年訓練所、処女会の幹部宛の依頼状32通、学校宛挨拶状18通、後援会への招宴案内12通、この費用60円、会員1人当たり10円の負担となった。

5月28日より30日まで3日間、最後の手配に準備委員は悲鳴をあげる。

ノート4、昭和9年6月20日より

沼東校1,300名の学童口腔検査、午後2時終了。この学校では毎年検査終了後、ピンポンかテニスをするのが恒例であったが、大掃除中とのことで、コートがぬれて希望のテニスはできない。レースをやろうと、みんなを校庭へ連れ出し先生から号砲を借りた。ヨーイドンで号砲をぶっ放すと、走る走る……。 (口腔診査の後、学童と運動の交歓など、美唄の歯科医師のユニークな企画のありさまがうかがえる。)

ノート8、美唄方面雑記帖（昭和10年10月10日発行の会務月報59号）

札幌温泉の花見会

総会もすんで5月に入る。前日からの寒かった雨が雪に変わり、ふくらみかけた花の蕾も急に固くなる。方面健保の審査委員会には、木炭をどっさりおこして花見の日程を協議する。今日は珍しく事故が少なく、10時ころには仕事が片付いたからである。

期日は、5月11日から13日の3日間を利用し札幌温泉行きに決まる。

この札幌温泉行きは、期待に反したものとなった。開業当時の面影はなく、予期した感興は湧かず、以前にあった外風呂も蒸し風呂もなく、設備も殺風景をきわめ、町風呂にも劣る感じでたちまち上がってしまった。

※ 昭和4年ごろ、将来は札幌の宝塚にするという宣伝文句で、定山溪から温泉をひいた鉄筋建の「札幌温泉」が、今の旭山公園の辺りに建ち、南1条西21丁目から、広い畑の中を山麓まで電車が通っていたが、昭和12年ごろ、経営不振で中止となった。

ノート10、昭和11年9月

昭和11年9月13日より1週間、三井美唄で衛生展覧会が、衛生組合、衛生婦人会の主催賛助で開かれた。

9月28日、金粉の分析実演会。岩見沢、石田歯科商店の主催。これには美唄の歯科医師、技工士助手等数名が参加した。

9月15日、小樽で艦隊出航の見送り。

9月22日、殉職、高橋航空兵曹慰霊祭に参加。…など幅の広い記事である。

（このころ、道歯会報第59号接受と、空知支部会誌、昭和10年7月6日にある。）

昭和7年頃の会員にはそれぞれ愛称（ニックネーム）がたてまつられ、当時の会員間の親密さがうかがわれる。

当時（昭和7年頃）の会員の愛称と開業年次

高橋常保・大正7年小ハゲ、桜田巳年二・大正15年大ハゲ、北野幸夫・大正15年神の子、扇谷重憲・昭和2年我路開業、町会議員・和尚、扇谷一貫・昭和5年南美唄開業・童子、三浦萬蔵・昭和5年月形町開業・半平太、表山秀人・昭和6年我路開業・秀人、島田清司・昭和7年我路開業・我ん路、小川辰之・昭和9年若年寄または奇声居士、山崎芳郎・昭和10年桜田巳年二先生の若先生でしばらく手伝った後、月形町に開業・ハゲ不知の毛子または下戸茶目、その他に曇空、サタン、月下曾などのメモあるもくわしくは分からないけれど、当時の方面会の親密の深さをうかがい知ることができて楽しい。

昭和8年秋、町内学童口腔検診後、我路町の観楓会の時の名吟を披露しておこう。

澄む水に恥じらふ風情崖紅葉、神の子。満庭撃として独り紅葉の驕哉、秀人。

妻恋て鳴てふ鹿の欲しい山、我ん路。山荘の時雨紅葉や庭の錆び、童子。庵室は紅葉に暮れて鐘浜る。大ハゲ。紅葉履み分け友、互いに友を呼ぶ、和尚。友も皆紅葉に染みぬ山の宴、小ハゲ。まこと長閑そのものであり、方面会一同ことごとく風流を解した辺り、古き良き時代といえる。

（雨田 実 記）

昭和11年 二・二・六事件 三井美唄鉱業所病院歯科室開設

同 12年 日華事変勃発

扇谷一貫・三浦萬蔵両先生応召さる。

高橋 常保
扇谷 一貫
桜田巳年二
扇谷 重憲
北野 幸夫



扇谷一貫先生 出征壮行会（昭和12年）

昭和11年頃、空知歯科医師会美唄方面会創立15年記念史編纂の気運高まるが発刊かなわず。函館歯科医師会でも、昭和12年に函館歯科医政史刊行を企画し委員を委嘱しており、何回か編纂委員会も開催しているが、中断するに至ったとある。

世情慌しい中、なかなか困難な事情のあった事がわかる。

道歯保険審査会の実施

昭和9年から、同15年迄、空知地区会員の保険の審査員として、高橋常保会長、桜田幹事と北野理事の3名で実施。特筆すべき事業！

昭和2年4月からの1カ年の健康保険利用者は、レセプト合計6000余枚。

当時道内保険医219名で、1カ月1人当報酬金は、9円強とあり、金歯2枚分相当との事。昭和9年には、1カ年病院報酬請求枚数合計8469枚で、報酬金総額も、それ程の増加をみしていない。

戦前一時期、美唄に歩みを印した人としては、元道歯会長 館山文次郎、元岩歯会員 山本兼義、本間 清、宮地信司、元日高歯会員 梅田邦夫、元空知歯会員 札増 悟、元日本歯科大教授 小川辰之の諸先生がおられた。

昭和12年5月1日 美唄大火 桜田幹事大活躍。

美唄歯科医師会史を語る場合、昭和12年5月1日の美唄大火を語らないわけにはいかないうと思う。北海道の大都市では函館市が幾度か大きな火災にあっていようであるが、北国特有の積雪による道路事情の悪さが消火活動の遅れをさそい、大災害につながり大火となったり、春先の風の強さが原因の場合にも木造家屋、特に往時はマサ屋根の家も多かったことも原因の1つであったであろうことも想像に難くない。その他もろもろの理由で北国では大火による災害が記録されていることは残念ながら事実である。昭和12年5月の美唄大火も、北海道特有の馬フン風の強い頃であったという。

美唄市が炭鉱町として盛んになりかけ、財閥系の岩崎、日石等の炭山が多くなり、活況を見せ始めたころであり、町中にも歯科医院も10件近くを数えたという時期に、突然（災害とは大体において不意に起こるものであるが）、午前中ではあるが昼には間のない10時頃と伝えられている。

大火災になると強風がともなうもので町の西部から燃え出した火の手は町の中央部付近で東方と北方の二方に分かれ一方は美唄駅方面に、一方は北のかた12号線の1本西の道路にそって空知神社方面に向かって南風にあおられて延焼し、道歯会空知支部美唄方面会幹事桜田歯科医院の前まで燃えさかり、最早これまでと、ご家族も皆避難したというのに、何を思ったか桜田先生、ただ1人家の中から、奥さんの真赤な腰巻を取り出し、物干竿に結びつけ、まるで、モノに憑かれたかのように、必死で打振ったという。無数に飛び散る火の粉や紅蓮の炎の中で、無我夢中であったという。不思議なこと、考えられないことは起きることがあるもので、さしもの猛火が、北向きから東向きに延焼して行き、すぐまた北向きに燃えて行き、道路1本ずれたために桜田先生のところと空知神社は類焼をまぬがれたという。ために眉毛も髪の毛も髭も火をかぶったため無くなって、困ったという。魔訶不思議とはこのような事をいうのであろうか。この大火災は美唄町中央部をほとんど焼き尽くし計372戸の家屋が消失し、同業者では北野、小川両氏の歯科医院も類焼の難に遭われたという。

美唄大火の折の桜田先生の燃え盛る猛火に赤い都の旗振って立ち向かって猛火の向きを変えた行為は会史の中で特筆に値する、伝説に近い実話の1つとして永久に輝きを失わないであろう。

（雨田 実 記）

公休日の設定が支部会の議題に

明治、大正時代は、休日も自由、診療時間も自由であったが、昭和に入ってもその状況は続いた。歯科界にも公休日を設定してはどうかとの意見が出てきた。昭和13年に商店街で休日を実施した影響である。

昭和13年11月11日

空知支部会では、第17回臨時総会が美唄町消防会館において開かれ、商店法による公休日制定を取り入れ、毎月なるべく（15日）を公休日としたきこと申し合わせを決定したが徹底しなかったとある。

昭和16年 太平洋戦争開戦 美唄町人口57,190人

昭和17年 国民健康保険制度開始（発足当初は任意加入）

昭和18年 徳田炭鉱（東美唄）を三井鉱山買収、三井新美唄鉱誕生
三井新美唄病院歯科開設（谷本芳信先生）

町立美唄病院開設

昭和20年 8月15日 敗戦

昭和21年の空知支部会名簿上の美唄関係諸氏以下の通り。

新制美唄歯科医師会発足直前の会員加入の状況と思われる。

美唄町	高橋 常保
〃	櫻田己年二
〃	北野 幸夫
〃	今仲喜代一
〃 南美唄	扇谷 一貫
〃 〃	扇谷 重憲
〃 我路	島田 清司
〃 〃	窪田 孝次
〃 三菱美唄専属病院	大橋 鉄男
〃 三菱常盤台病院	和田 義雄
〃 三菱日東破病院	佐々木茂夫
月形村	三浦 萬蔵
〃	山崎 芳郎
浦臼町	本間 寿彦

昭和22年 三菱美唄鉱業所病院滝の沢分院開設

郡市区歯科医師会設立

（昭和22年11郡市、同23年16郡市歯科医師会となる）

郡市に待望の歯科医師会設立

昭和23年7月30日 美唄歯科医師会誕生す。

美唄町国民健康保険法全面改正（強制加入制）

美唄町人口 81,450人 歯科医師数19名

岩見沢、夕張、美唄の3郡市区歯科医師会は空知の解散による創立である。空知歯科医師会の設立認可は9月7日である。

郡市歯科医師会の独立は、昭和初期からの宿願であり、戦後民主化の動きと相まって、新生歯科医師会成立と共に、待望の郡歯会が成立した。社団法人美唄歯科医師会の独立、誕生である。この当時の美唄歯会員数は19名である。

初代美歯会会長には、方面会時代から引き続き高橋常保先生が就任し、補佐する副会長は2名で、北野幸夫先生（のちの第2代会長）と扇谷一貫先生（のちの第3代会長）が、専務理事には今仲喜代一先生が、それぞれ担当された。

後年、即ち昭和48年に、一度は分離独立した会であるが、道央北ブロック連絡協議会の形で、再び従前の空知支部会の如き連合会が催される事になる。

一方、この頃、岩見沢、美唄両会合併の機運もあり、「発刊の頃をしのんで」と題し、道歯会通信 昭和48年9月30日発行（第283号）に飯田右翼先生の記述がある。

発会の頃をしのんで

戦前の旧制歯会から戦後の新しい制度の歯会に変わったのは確か昭和23年頃であったと思う。

岩見沢、美唄の両会が合併の件で岩見沢において会合し種々討議の結果大筋において両会が合併する事に決まりかけたのではあったが、細部において妥協点に達することが出来ずに合併を見合わすことになってしまった。

何事によらず、こわす事は容易であるが、まとめる事は大変に難しいものである。

小生の記憶にあやまりが無ければ、当時岩見沢は30名位、美唄は20数名の会員数であったと思う。

誰しも20年30年後の見通しはつかなかったのも止むを得ないけれど、炭鉱閉山等による影響の大きい現在の状況を思う時、まことに惜しいことをしたと思っている。

その時の美唄の会長は高橋常保君、専務理事は今仲君であったが、両君初め桜田君、島田君も皆故人となり当時代議員であった小生のみ生き残っている。

その上に9月22日に日歯会員として50年以上の在籍者の一人として日歯会から表彰されることとなり出席する予定である。

まことに有難いことで、これも長生きのお陰と、すでに故人となった会員がたの冥福を祈りながら沁々と感謝している。

この頃より会員の入・退会が相つぐ。炭鉱病院繁忙の為の炭鉱病院勤務者の出入りが主であるが、新制歯科医師会設立と、昭和26年からの桜田美歯会事務長の就任により、正確な記録が整うようになった事も重要な要素である。桜田事務長は桜田巳年二先生の御次男であり、美唄生まれ、美唄育ちであり、つぶさに歯科界の変遷を眺める立場にあった。記録の保存に務める事、大いに貢献し、以下、各会員の入会・退会の記述も正確さが期されている。たんなる事務職を越えている氏の役割は実に大きなものがあり、思い出の項にその経緯は詳しい。

同年 嶋田君江先生退会

昭和24年 水野旋風吹き荒れる

口腔衛生週間の復活

佐々木茂先生、三菱日東鉱病院より転出（昭和23年～25年美歯会理事）

岩手県大船渡市にて開業のため

伊藤喬先生転出（6月25日）（昭和23年監事）

三浦萬蔵先生 月形村より転出（12月1日）

雨田 実先生 三井美唄鉱業所病院歯科勤務へ、入会（9月11日）

山本 俱先生 三菱系炭鉱病院勤務へ、入会

谷本芳信先生退会 三井新美唄鉱病院歯科退職（上砂川に開業のため）

（昭和24年、25年美歯会監事）

昭和25年 三菱美唄鉱業所病院常盤台分院開設（歯科あり）

市制移行、美唄町から美唄市になる

人口 87,095人

北海道総出炭量の20%を産出

炭鉱別戸口、住宅数と学校（昭和25年4月1日現在）

種 別 炭鉱名	世帯数	人 口	住宅数	学 校		
				小	中	他
三菱美唄	5,220	28,909	4,654	6	3	6
三井美唄	3,503	19,015	3,149	1	1	2
三井新美唄	1,068	4,439	960	1	1	
三菱茶志内	825	4,077	750	1		
上 村	52	318	35			
計	10,668	56,758	9,548	9	5	8

『市政要覧』昭和25年版により一部補正作成。美唄百年史より

高橋常美先生 転出（三井鉱山KK美唄鉱業所病院歯科より）6月30日

小沼四郎先生 転出 9月（三菱茶志内日東美唄病院歯科から）

中安安雄先生入会（三菱美唄病院勤務）4月1日

竹内寿治先生入会 8月15日

昭和29年

宝崎幸子先生再入会 1月

清水進先生 1月入会 10月転出

大場精治先生 転出退会（三菱鉱業系炭鉱病院勤務より）11月16日

この頃よりオイルタービン登場

昭和30年 美唄労災病院開設

美唄市医師会創立（南空知医師会からの分離・独立）

我路市で開業の嶋田清司先生退会

（昭和23年美歯会理事、昭和24年～25年副会長、昭和26～30年 同監事）

昭和31年

久保田比出夫先生入会

中安安雄先生転出（津別町病院へ）（昭和28～31年美歯会理事）

昭和32年

久保田比出夫先生転出

鬼塚周博先生入会 4月1日

高橋常美先生再入会 4月1日

牛丸トシ先生入会 4月3日

竹内寿治先生転出 4月3日

高津正直先生入会 4月3日

本間寿彦先生退会（月形村より）

岡部啓一先生入会



定時総会のひととき
（昭和32年3月 於労館）

今仲喜代一
桜田巳年二
扇谷 一貫
石原 利男
橋本 隆市

昭和33年

美唄労災病院内に歯科新設

この頃の美唄歯科医師会における医療報酬標準規定が定められており参考までに掲載する。

診療科目	診療料
一般診療	100円
外科	100円
内科	100円
小児科	100円
婦人科	100円
産科	100円
眼科	100円
耳鼻科	100円
皮膚科	100円
泌尿科	100円
精神科	100円
放射線科	100円
検査料	100円
薬剤料	100円
手術料	100円
入院料	100円
退院料	100円
搬送料	100円
その他	100円

医療報酬標準規定（昭和33年10月）

山本俱先生転出（昭和12年より三菱鉱業系病院勤務） 1月25日

（昭和24、5年美歯会監事、昭和26、7年同理事 昭和28、9年道歯代議員 札幌厚生病院へ）

飯田右翼先生再入会 3月10日

岡田一夫先生入会（美唄労災病院勤務） 4月1日

扇谷明典先生入会 4月1日

角野喜代太先生入会 5月23日

前山 巖先生入会 10月15日

昭和34年

高津正直先生転出

工藤泰延先生入会（峰延町開業） 3月14日

昭和35年

美唄市人口減少へ

昭和33年 91,424人

34年 90,404人

35年 87,345人

山本良生先生入会 7月25日

岡部啓一先生転出退会 5月26日（昭和34年美歯会監事）

富田鍊也先生転出（三菱鉱業炭鉱病院勤務より） 9月30日（昭和32年～35年美歯会理事）

この頃の年次、美歯会史上最多の会員数であり、地域のどの場所に開業や勤務されていたか、又、現在開業している先生との比較の配置図を参照されたい。

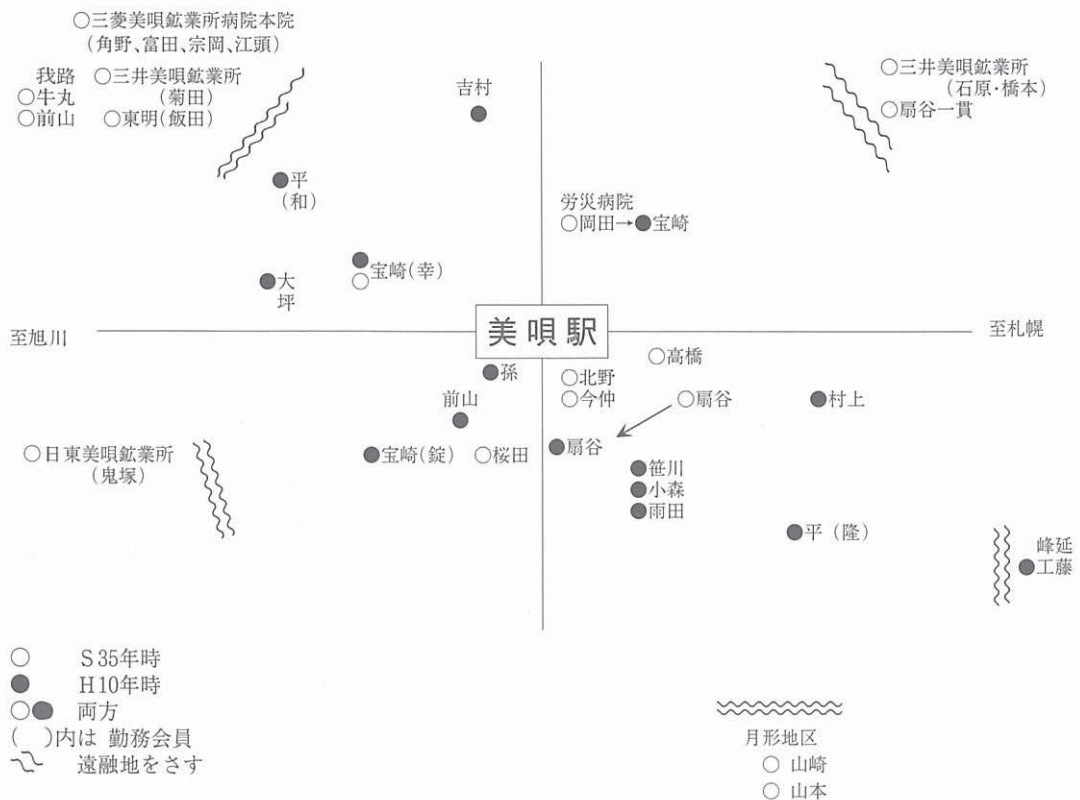
併せて当年の全会員一覧と会員推移を参考迄に掲載する。

炭鉱閉山に伴う市の人口の移りかわりと共に対比されたい。

昭和23年	昭和35年	昭和54年	平成6年
保美夫二子貫司治郎也信夫翼喬藏郎彦博 常幸年一代 常幸巳喜幸一清精源鍊芳茂右萬芳寿 橋橋野田仲崎谷田場井田本木田藤浦崎間丸 高高北桜今宝扇嶋大永富谷佐飯伊三山本牛	夫貫典保美二子博シ巖市翼延郎男ヲ博生夫太郎博 幸一明常巳喜幸ト隆右泰芳利ミサ良一喜五周 野谷谷橋橋田仲崎丸丸山本田藤崎原頭田本田野岡塚 北扇扇高高桜今宝牛牛前橋飯工山石江菊山岡角宗鬼	実典美夫子二市延郎ヲ翼 明常幸幸錠隆泰芳ミ右 田谷橋野崎崎本藤崎頭田 雨扇高北宝宝橋工山江飯	実典美子二世和一嗣一範子彦男隆 明常幸錠英義泰政隆治祐善孝和美 田谷橋崎崎森坪川村村山上 雨扇高宝宝小大孫笹平吉吉前村平

○昭和35年時開業配置図 (人口8万7000人)

●現在会員開業配置図 (人口3万3000人)



昭和35年当時の美唄歯科医師会会員名簿

役員

会長	北野幸夫
副会長	石原利男
〃	今仲喜代一
専務理事	牛丸博
理事	扇谷一貫
〃	橋本隆一
〃	富田鍊也
監事	桜田巳年二
顧問	高橋常保

会員

北野幸夫	美唄市東1条南3丁目	
高橋常保	美唄市東1条南4丁目	
高橋常美	美唄市東1条南4丁目	
今仲喜代一	美唄市東1条南3丁目	
桜田巳年二	美唄市西1条南1丁目	
宝崎幸子	美唄市東2条北2丁目	
扇谷一貫	美唄市南美唄町	
扇谷明典	美唄市西1条南6丁目	
牛丸博	美唄市我路町	
牛丸トシ	〃	
前山巖	美唄市東明1区	
飯田右翼	美唄市東明市街	
工藤泰延	美唄市峰延町	
山崎芳郎	樺戸郡月形町	
岡田一夫	美唄市東6条南1丁目	(自宅) 美唄市労災病院
石原利男	美唄市三井美唄山ノ手社宅	(自宅) 美唄市三井美唄鉱業所病院
橋本隆市	美唄市三井美唄北町社宅	(自宅) 美唄市三井美唄鉱業所病院
菊田博	美唄市三井美唄東明栗林職員社宅	(自宅) 美唄市三井美唄鉱業所病院
角野喜与太	美唄市東美唄町一番町社宅	(自宅) 美唄市三菱美唄鉱業所病院
富田鍊也	美唄市東美唄町二番町社宅	(自宅) 美唄市三菱美唄鉱業所常盤台分院
宗岡五郎	美唄市東美唄町番町アパート1ノ5	(自宅) 美唄市三菱美唄鉱業所
江頭ミサヲ	美唄市東美唄町滝ノ上社宅	(自宅) 美唄市三菱美唄鉱業所盤ノ沢分院
鬼塚周博	美唄市茶志内富之郷社宅	(自宅) 美唄市日東美唄鉱業所病院
山本良生	札幌市豊平町美園6条6丁目	